

輸 入 粗 飼 料 の 情 勢

全 酪 連
購買生産指導部
購買推進課

北米コンテナ船情勢

12月に入り北米西海岸航路は主要の乗継航路を含めて本船スケジュールの乱れはさらに悪化し、元々のスケジュールから2～3週間後ろ倒しになっている本船も散見されています。2月には中国の旧正月も控えており、旧正月が始まるまでには中国発着の貨物が増加し、旧正月中には中国に発着する貨物の流通量が一時的に低下しスケジュール調整のため本船を間引き運航する可能性もあり、海運情勢が安定するまでには時間がかかる見込みです

また、パナマ運河での降水量不足によりパナマ運河庁（ACP）は、通航する船舶の最大喫水制限や通航隻数の制限を夏時期に行っていましたが、11月から2月にかけて再度、通航隻数の制限を行うことを発表しました。それに伴い一部の船社はパナマ運河経由の航路をスエズ運河経由に変更する対応をしていましたが、12月に入りスエズ運河近くの紅海でイエメンの親イラン武装組織フーシ派による商業船への攻撃が相次いでいることを受け、各船社はスエズ運河の航行を見合わせる事態となり、該当航路の多くは南アフリカの喜望峰経由へと航路変更をしています。

アジアから喜望峰経由での航海時間は、スエズ運河経由に比べ欧州行きで3～4週間、米国東海岸へは5日程度長くなるため、船が海上に滞留する時間が大幅に増え、世界全体として輸送効率が低下する見込みです。また、今後の紅海経由の航路には高額なサーチャージを掛けることを発表した船社や、喜望峰経由に適用されるサーチャージ、その他緊急時のチャージなど各船社チャージの名目は異なりますが、航路変更に伴い生じるチャージを発表した船会社が相次いでいます。

北米西海岸発アジア着の一部の航路ではすでに紅海の治安問題の影響がでており、北米西海岸からアジア、スエズ運河、ヨーロッパ、スエズ運河、アジア、北米西海岸という順で運行している航路については、喜望峰回りにより欧州航路の航海日数が延びることで北米発アジア着の航海日数も同様に延びてしまうことから、急遽他航路から振替する動きも発生しており、スケジュールの乱れが発生しています。今後は世界的な輸送効率が低下することでコンテナの回転率も低下するなど、さらに北米貨物の輸送にも影響が出てくる恐れがあり引き続き注視が必要です。

ビートパルプ

【米国】

産地では製糖作業とビートパルプの生産が続いています。例年では4月から5月にかけて収穫作業が終了しますが、作業が順調なことから少し前倒しで終える見込みです。現在、産地では気温が高い状況が続いている影響で冬季に保管された砂糖大根の品質劣化や廃棄が発生し生産量の減少が懸念されています。

米国産ビートの需要については、23年産の上級品アルファルファの高値取引や大豆粕価格の上昇もあり、先月に引き続き堅調に推移しています。

アルファルファ

23年産の1番刈は主産地であるワシントン州やオレゴン州で収穫期に不安定な天候が続いたため、上級品の発生は限定的となりました。そのため、不足した上級品を補うために米国内酪農家や各輸出業者は刈取り番手が進むごとに買付を積極的に行っており現在の価格は高水準で推移しています。輸出向け需要としては、中国向けが徐々に回復しつつあり、日本向けよりも高値で取引されています。

カリフォルニア州南部インペリアルバレーでは現在10番刈の収穫が行われています。産地では冬季期間のため夏場に発生するサマーヘイに比べ成分も回復していますが、米国内や輸出向けの需要は低く推移しています。

米国産チモシー

主産地である、ワシントン州コロンビアベースン及び、エレンズバーグでは23年産の生産は終了しました。現在の需要は米国内の馬糧向けや酪農向け上級品に対する引き合いが強く、上級品の供給力は限定的となっています。低級品については各輸出業者で工場の操業に苦慮しており、稼働率を維持するために一部の輸出業者が値下げを行い、出荷を促す動きが出ています。

24年産の作付面積については、23年産の価格下落により生産農家は換金性が高いとうもろこしや大豆といった他作物に転作することが予想されているため、作付面積は減少し相場の上昇が見込まれています。

スーダングラス

産地では23年産の収穫は終了しました。スーダンの主な輸出先である日本向けの需要は22年産高値の影響で減退し、23年産の作付面積は減少しましたが輸出業者の旧穀在庫消化に目途がたったため徐々に日本からの引き合いも出てきている状況です。しかしながらスーダンの需要は以前に比べ減退していることから24年産の作付

面積は更に減少する可能性があるため動向には注視が必要です。

クレイングラス（クレインは全酪連の登録商標です）

産地では23年産のクレイングラスの収穫は終了しました。主産地であるカリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、内需からの強い引き合いはないものの、日本や韓国向けで出荷は安定している状況です。産地では24年から開始が見込まれている畑を休ませることで政府から補助金がもらえる休耕地政策の影響でクレインの生産量は減少すると予想されています。

インペリアル灌漑局から発表された12月15日付の作付面積は去年同期比97%となる、21,542エーカーとなっています。

バミューダ

2023年のバミューダヘイは8月と9月の降雨により中級品に発生が中心となりました。現在、日本向けの需要は低調に推移していますが、米国内酪農家向けや台湾向けの需要は安定しています。

ストロー類（フェスキュー・ライグラス）

主産地であるオレゴン州ウィラメットバレーでは、23年産の収穫は終了しています。23年は例年に比べ降雨が少なく土壌中の水分が不足した影響で生育が進まず生産量が大幅に減少しました。そのため、24年産が開始されるまでの供給は限定的となり輸出向け価格は高値で推移しています。産地では12月に複数回の降雨が発生し乾燥した土壌を潤しましたが、雨量が多い地域では休眠中のストローが根腐れする可能性もあり、来年の作付面積減少に繋がる懸念されています。

カナダ産チモシー

主産地であるアルバータ州中部クレモナ地区、南部レスブリッジ地区ともに23年産の収穫作業は終了しており、南部レスブリッジ地区の品質は中級品から上級品、中部クレモナ地区の品質は低級品から中級品が中心の発生となりました。産地では引き続き暖冬の影響で降雪も少ないため、24年産の生産に影響を及ぼす可能性も予想されています。

豪州産オーツハイ・ウィートストロー

23年産オーツハイの収穫作業は終了しています。作況については全豪全体で降雨が少なかった影響により大半が上級品の発生で、中～低級品の発生は限定的となっています。各輸出業者は中～低級品の需要を補うために旧穀在庫からの出荷やオーツハ

イとウィートストローをブレンドして出荷する見込みです。

ウィートストローについては現在、収穫作業が本格化しています。西豪州では天候に恵まれたため見た目が綺麗な品質が発生し、南豪州と東豪州の一部では12月中～下旬の降雨の影響で色に変色した品質が発生しています。

豪州ストライキ

Maritime Union(港湾労働者組合)と DP World terminal (港湾施設)間で賃金論争が原因となり断続的にストライキが発生していましたが、現在も続いています。ストライキの内容は荷役作業を一定期間停止するというもので、荷役作業の効率が低下しスケジュールの遅延が相次いでいる状況です。12月下旬に両社の賃金交渉は1月下旬まで行わないことをMaritime Unionが発表したこともあり交渉再開までストライキが続く見込みのため、引き続きスケジュール遅延が懸念されています。

以上